学校番号	T1202

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	(通信)数学Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	改訂版　新　高校の数学Ａ（数研出版）						
副教材等	自主制作プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校数学までで学習した内容を確認し、それを基に数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めます。
・授業は、教科書に沿った内容をプリントで学習し、知識の定着を図ります。
・レポートは、授業プリントを基にした内容での出題となります。授業には毎回しっかりと取組みましょう。
・授業への取り組み状況も評価の対象となります。遅刻や欠課をせずに、しっかりと出席しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解し,数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現,処理したりする技能を身につけている。	・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身につけている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとするし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価、改善したりしようしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

回数	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1～6回	場合の数・確率	集合 集合の要素の個数 和の法則と積の法則 順列 組合せ 事象と確率	a: ・共通部分、和集合、空集合、全体集合、補集合など集合に関する用語を理解し,それらを求めることができる。 ・和の法則や積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 ・簡単な場合の数を、順列の考えを利用して求めることができる。 ・ものを数え上げるのに集合を利用して考察することができる。 ・組合せの性質を理解し、公式を利用することができる。 b: ・ベン図を利用して集合を図示することで、補集合や和集合の要素の個数を考察することができる。 ・和の法則を、表を利用することで、また積の法則を、樹形図の特別な場合として考察することができる。 ・特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり、別なものに対応させたりして処理することができる。ものごとの起こりやすさを、同様に確からしいという概念をもとに数量的に考察することができる。 ・試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ・場合の数を求めるのに、効率的に考えることができる法則（和の法則・積の法則）があることに興味をもち、使いこなそうとしている。 c: ・様々な場合の数を求めるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ・理論上のさいころと実生活におけるさいころの厳密性の違いを知ることで、数学が理論的な思考によって成り立っていることに興味・関心をもつ。	考査 小テスト	考査 パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート

7～10回	図形の性質	図形の基本 角の二等分線と線分の比 三角形の外心，内心，重心 円周角の定理	a: ・図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができる。 ・三角形の外心、内心、重心の定義とその性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができる。 ・弧、弦、円周角、中心角など円に関する用語を理解し、円周角の定理を使って角の大きさを求めることができる。 b: ・角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの基本性質を使えばよいかが判断できる。 ・三角形の外心、内心、重心の性質を理解し、それらを用いて図形を論理的に考察することができる。 c: ・図形の基本的な性質を活用できる場面を見いだそうとしている。 ・三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味をもち、考察しようとしている。	考査 小テスト	考査 パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度